

土壤医検定を通して学んだこと

岐阜県立岐阜農林高等学校 園芸科学科 3年 山口杏

私は、岐阜農林高校の園芸科学科で草花や野菜の生産について学んでいます。「農業と環境」の授業ではナスやピーマン、「野菜」の授業ではスイカやトマト、「草花」の授業ではキクを栽培しました。ただ栽培するだけでなく、播種から開花、収穫をおこなう中で植物体をよく観察し、自ら課題を設定し、自分でレポートをまとめるという学習をしています。それらの学習を通して、徐々に土の大切さがわかるようになりました。土がないと作物を栽培することができませんし、土の成分が少し違うだけで作物には大きな影響が出てしまいます。

作物生産を学ぶ上で土を理解するのはとても大切なことだと思い、土壤医検定3級を取得することを目標としました。過去問を解いてみると、土のことだけでなく、肥料や土壤病害、生育障害など、作物栽培における大きな要素が含まれているということが分かりました。思った以上に範囲が広く、稲などの専門外の項目もあり覚えることが多くあって大変でした。

授業を通して、先生方が検定受検に向けて多くのことを教えてくださったのですが、私は暗記が少し苦手な授業を受けるだけでは身に付きませんでした。そこで、普段の実習や課題研究で作物に触れる時に検定勉強の中で覚えたことを思い出すようにしました。「この肥料はリン酸が多く含まれているから、開花に影響しているんだな。」「今、土壌中のECが高いから、施肥を控えなければいけないんだな。」実習の中でおこなっていることが、作物にどのような影響を与えるのか、テキストに書いてあることと実物を繋げることを常に意識して取り組みました。

検定に向けての学習の中で、農業に関わる私たちにとってとても大切なことを学ぶことができました。勉強はとても大変だったけど、知識として覚えたものを実践に移すことで徐々に問題が解けるようになり、土壤医検定3級に合格することができました。合格したことで農業のプロフェッショナルに少し近づけた感じがしてとても嬉しくなりました。

私は高校卒業後は4年制大学の農学部に進学して、より深く農業を学んでいこうと考えています。そして将来は農業の教員として働きたいと思っています。土壤医検定3級を受検して学んだことは私の夢への第一歩になりました。

